

# エゾセンニュウ

*Locustella fasciolata*

ウグイス科・夏鳥



エゾセンニュウ（円内写真は類似種のシマセンニュウ）

（イラスト：タカダヒロキ）

## 名前の由来

エゾ(北海道)のセンニュウの意で、センニュウは仙遊(せんゆう)から変化したと考えられている。“潜入”から来ているとする説もある。漢字名：蝦夷仙入

## 特定種

該当なし

## 形態的特徴

全長(くちばしの先から尾の先まで)18cm。スズメよりも大きい。体は濃褐色で白い眉斑(眉毛の様な斑点)があり、下面は灰色をおびる。

声：「トッピンカケタカ」とけたたましく鳴く。

## 生息環境・分布

河川や湿地のふちの、オオイタドリなどの背の高い草の茂みで繁殖する。湿地周辺の疎林やササ藪の中でもみられる。

分布：ユーラシア大陸中緯度地方東部、バイカル湖からウスリー地方にかけて繁殖分布し、冬はフィリピンからニューギニアにかけてすぞす。

日本には北海道に夏、渡来し繁殖する。本州以南は旅鳥として通過する。

## 食性・他生物との関わり

草むらの中に潜り、歩きながら昆虫をとる。捕食者は猛禽類など。

## 興味深い話・配慮事項

■草むらに潜って姿を見せない鳥であるが、「トッピンカケタカ」と、けたたましく鳴くので所在がわかる。また、このさえずりは「ジョッピン(錠)かけたか」とも聞きなし

## 類似種と見分け方

ウグイス、シマセンニュウ、マキノセンニュウ、オオヨシキリ、コヨシキリなどと似ている。エゾセンニュウは、オオヨシキリより茶色が濃く、尾の先が丸。また「トッピンカケタカ」というけたたましいさえずりでわかる。

して通過する。

北海道には夏鳥として5月末頃に渡来し、平地から低山の森林で繁殖する。

十勝地方には、6月上旬に渡来。平地から低山の森林のほか、農耕地の残存林にも生息する。

## 繁殖生態

繁殖期は6～7月。草むらや藪の中で地上1～2mくらいのところに、深いお椀形の巣を作る。3～5個産卵する。抱卵・育雛日数は不明。

される。夜にも頻繁に鳴き、やかましい程のことさえある。

■川原や湿地周辺の藪が大事である。

■アイヌ語で「トッピ」という。

## 生活サイクル

|              | 1月 | 2月 | 3月 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 |
|--------------|----|----|----|----|----|----|----|----|----|-----|-----|-----|
| 十勝出現期        |    |    |    |    |    | 繁殖 |    |    |    |     |     |     |
| フィリピンなど(越冬期) |    |    |    |    |    |    |    |    |    |     |     |     |

## 参考文献

「原色日本野鳥生態図鑑(陸鳥編)」中村雅彦・中村登流、保育社 1995

「野鳥ブックス2 フィールドガイド日本の野鳥」高野伸二・谷口高司・森岡照明・叶内拓哉、(財)日本野鳥の会 1982(1994増補版7刷)

「北海道の野鳥」藤巻裕蔵・小堀煌治、北海道新聞社 1997

「山溪カラー名鑑 日本の野鳥」高野伸二編、浜口哲一・森岡照

明・叶内拓哉・蒲谷鶴彦著、山と溪谷社 1985(1995 2版21刷)

「北海道鳥類目録改訂2版」藤巻裕蔵、帯広畜産大学野生動物管理理学研究室 2000

「十勝と釧路の野鳥」日本野鳥の会 十勝支部・釧路支部、1987

「図説 日本鳥名由来事典」菅原浩・柿澤亮三編著、柏書房

1993

「増補改訂版 日本鳥類大図鑑 Vol. I」清棲幸保、講談社 1978

魚類

底生動物

両生類  
爬虫類

トンボ

チョウ

樹木

(在来種) 草花

(外来種) 草花

哺乳類

(水辺) 鳥類

(草原・樹林) 鳥類  
ワシ・タカ